

する事業を監視し、——其の難件を決し弱き者を健つけ、臆病なる者を勵まし、欄より迷ひ出たる羊を尋ねて之を回し、凡の人々を至聖至潔の信仰に立たしめなりき。

教會は又執事ありて全會聚の世俗的幸福を監視し、貧者を看護す。又役者即ち傳道者ありて、世界に生命と救拯との新き福音を傳へ、新き教會を立て、シオンの區域を擴張しき。彼等は道を宣傳へ、時を得るも時を得ざるも、屬みて之を務め、各様の忍耐と教誨を以て人を督し、戒め勸めぬ。新約の教會の職員は此の三級より成る。此外一切之あるなし。大監督なく、僧正なく、主教なし、政權と神權とを主張する所の法王あるなし。是故に職員と組織に於て原始教會と異なる所の一切の教會は新約教會と同一なるを得ざるなり。

第三十三章 教會の禮典。

禮典と其の勤守。主の晩餐。一週の首日。パブラスマ。凡て是れ紀念の物なり。

第三に吾人は禮典と其の勤守の上に注意を求む。如何なる宗教團體の事を記するにも、此は甚だ重要な物なり。或る團體は此點に於て實際相違せり。或る宗教團體は會員と爲らんとする人々に、水滴を點じ、他は彼等を水中に浸む。彼等は他の關係に於ては同様なるも、此一點に於て十分兩者を區別するに足る。

使徒時代の教會は更に一個重要な禮典を守る。是は全の時代を通じて深甚の意味を有する物なり。此の重要な禮典は「主の晩餐」又「パンを擘くこと」を呼ばる。「基督の血を享け基督の體を享くる者なり」哥

前十一〇二十、十〇十六。基督は其の弟子に命するに彼を記へん爲に之を爲すべきを以てせり。茲に一個の事實ありて、此の教會の建設者と相關せり。是は此の奇異且つ趣味ある重要な禮典を、全部ならずとも幾分之を説明するに足るの事實なり。即ち彼が族長教又猶太教の祭壇にて屠られたる凡の犠牲に由りて豫表せられし大なる本體として死にたる事なり。彼は時來りて其の生命を此の世の罪の犠牲として捨てたり。蓋は血を流すことなしには罪の赦免なければなり。是故に彼の死は最も貴き聖愛の行爲なりとす。彼は人類が生命を得んが爲に死にたり。彼は人類の死を恐るゝなからん爲に死にたり。彼は死の力が廢せられ、墳墓の恐怖が去除かれ、人類が塵と灰の中より興りて永生を得んが爲に死にたり。是故に彼の死は其の誕生よりも益りて祝はれぬ。蓋は此の贖罪の偉業が、彼が十字架より「事畢れり」と

叫びし迄は成就せざりし故なり。是故に基督信者は彼の死を以て其の最も幸福なる希望の基として、之に固着して離るゝことなけん。蓋は唯彼の死に由りてのみ、其民は再び生きて彼の先づ往きて備ふる所の家に住むべき期望を懐ける故なり。基督の教會は神の子が死に克ちたる日を祝す。吾人は一週の首の日、我等パンを擘く爲に集り、パウロ彼等に道を語る」と告げらる。然れども彼等が彼の死を祝したる此の一週の首の日とは何ぞや。他なし、ただ一週の首の日にして何等特別の日に非ざるなり。吾人は聖書中一個處も主の日の上に何等の區別を立てたることを發見せざるなり。此日は皆均く同一大事實の爲に聖められ、之が紀念の爲に聖別せられたりき。神は其の舊民イスラエルに命じて安息日を記へ、之を聖く守らしめたまひしとき、彼等三四ケ月中の一日を記へて之を聖く守らす、

反りて凡の安息日を記へて之を聖く守りたり。若し神イヌラエルに命じて安息日を記へしめ之を聖く守らしむるに當りて其の凡の安息日を意味せるならば然らば則ち弟子たちが一週の首の日にパンを擘く爲に聚りしことの確實ならんには此の首の日が凡毎週の首の日を意味せる事を正に斷言すべきなり。用語法は双方の場合に同一なり。是事眞なる以上是は會て争はれし事なし吾人は問ふ近世の諸教會は其の實行に於て基督の教會と一致せりと主張することを得べきや否。何となれば彼等は唯一年兩三回主の死を祝するに過ぎざればなり。基督信者は初代の基督の信者と均しく今日に於ても凡て一週の首の日を以て基督の復活を記念すべきなり。

吾人は又一週の首の日を安息日と呼ぶべき何等聖書の權威有ることなきを認む。猶太人は一週の末の日即ち第七日を守り基督信者は首

の日を守る。猶太人は安息日を記へて之を記號として聖く守れり(出三一〇十七)。基督信者は復活の日に聚りて基督の死を記念せり。安息日がモーセの下に第四誡に提出せられたる同時に其の安息日は基督の下なる基督信者には何處にも課せられたることなし。

主は一週の首の日復興りて其日の夕其弟子たちに顯れたまへり(約二一〇一―十九)。其次の首の日(八日後に)彼等の再び聚まりしとき其の中に顯れたり(約二一〇二六)。五旬節(一週の首の日に)聖靈降り基督教會建てられたり(徒二〇四四、四七)パウロはガラヤ人コリント人に命じ一週の首の日に聚るとき貯蓄を爲さしむ(哥前十六〇一二)。

ルカはトロアスの教會が一週の首の日に聚つてパンを擘くことを語る(徒二十〇七)。吾人は更に黙示録の著者ヨハネが主の日に聖靈に感じたりきと云へるを讀む(黙一〇十)是故に安息日即ち第七日に非ずし

基 督 之 教 會

て一週の首の日、即ち主の日を守ることは、基督の教會の習慣にして、一般の慣例なりき。又主の日に代ふるに安息日を以てすべき何等の命令、教訓あることなし。然れども人或は曰ん、基督の死が一週の首の日ごとに記念せられたらんに、斯る儀式は甚だ平凡となるべしと。基督の死唯一次なるが如く、其の甦も亦一次なり。主の日毎に其の死を記念すること、之を平凡化すとすれば、主の日毎に其甦を記念するも、亦之を平凡化すと謂ふべからざらんや。何が故に首の日ごとに彼の復活を祝しながら、其の死を示して來る時まで、に及ぶべからざるか(哥前十一〇二六)。

次に吾人が注意を呼ぶところの禮典は、基督信者のバプテスマの其なり。此のバプテスマは基督の王國即ち彼の教會に入る爲の完成行爲なりしこと、既に前に説けるが如し。バプテスマの肝要に關して吾人

基 督 之 教 會

はバプテスマは人々の基督に來る最後の行爲なることを認む。耶穌基督に合んとてバプテスマを受けたる者は、其死に合んとて之を受けたるなり(羅六〇三)。是は神聖にして神の諸の名を結び着くる者なり。是は父と子と聖靈の名を以て行はるべく命せられたる唯一の行爲なり。此の聖き名は、バプテスマを受けて基督に入る人々の上に呼ばれたるなり。又は基督の埋葬と復活を表する所の唯一の儀式なり。初代の基督信者は水中に浸められたり。彼等は水を點せられ、又灌がれしに非ざるなり。凡の有名なる學者は浸没は原始の習慣なりしこと、および聖書の許多の聖句は斯く譯さるゝに非んば、意義を成さるることを許諾せり。是故に大凡原始教會に來る所の人はバプテスマに由りて葬られたり。曰く「バプテスマに由りて彼と同一に葬らるゝは、又之に由りて彼と同一に死より復活らん爲なり」(西二〇十二)と。又「我

等其の死に合ふバプテスマに由りて彼と共に葬らるゝは基督父の榮
 に由て甦されし如く我等も亦新き命に行むべき爲なり。若我等彼の
 死の狀に等からば亦彼の復生にも等かるべし〔羅六〇四五〕。今や此
 禮典を變へて全く其意味を破壊し之に代ふるに基督の埋葬と復活を
 表はさざる所の他の事物を制定する者あり。是故にバプテスマとし
 て神の聖なる名を稱へて人々の額に水滴を點するを見るは沈痛に堪
 へず。吾人は墓の側なるマリヤと共に叫ぶべく感ず曰く「彼等我主を
 取り去れり我其の何處に彼を舍きしやを知らず」と。
 聖書は信じたる悔改者がバプテスマに由りて基督と共に葬られし者
 は新しき生命に蘇ることを明白に教へたり。然るに或者は此の新し
 き生命が埋葬と復活無くして來ることを教へ、或者は改心者をして先
 づ新しき生命に歩ましめ次に死する者に非ずして此の生ける者を葬

むる。
 蓋今日此等の大事實即ちパウロが福音とし宣ふる所の基督の死と埋
 葬と復活の證據なる三個の禮典即ち紀念制度あり。第一は主の日は
 主の復活を紀念せんため初より守られ今猶ほ守らるゝ物なり。第
 二主の晩餐是其の死の事實を記せん爲に守らる第三バプテスマ是
 は彼の埋葬と其の復活を模表する物なり。
 是等の肝要なる紀念令は其の表彰する事實の證據として正當に高調
 せられず。然れども此等は活ける連鎖にして之を繰りて十字架とア
 リマタヤのヨセフの壁域まで反ることろの物なり。此等教會の禮典
 は使徒時代に於て是等の事實の證據として用ひられたり。パウロは
 ガラテヤ人に書き贈りて曰く「愚なる哉既に耶穌基督の十字架に釘ら
 れし事を明かに其の目前に著されたるガラテヤ人よ誰か汝等を証か

會教之督基

せし乎」と。若し此の事實が彼の裂かれし體流せし血の表彰たる此の
 バプテスマを受くるに由りて示されたるに非ざるよりは如何にして
 小アジアのガラテヤ人の中に十字架に釘られたる基督が著はされた
 るや。此は彼がコリント人に語る所の言と一致す。曰く汝等此のバ
 ンを食し此の杯を飲ごとに、主の死を示して其の來る時まで及ぶな
 りと(哥前十一〇二六)。此故に基督の弟子にして主の晩餐に參る時に、
 彼等は彼の死の事實を表はすなり。一週の首の日にして復活の紀念
 の爲に守らるゝ時此れは又此の事實を著はす物なり。若し人バプ
 テスマを受くる時は、彼等は二の事實即ち基督の埋葬と其の復活を表
 はす者なり。大凡此等の事物を定めたる者は神の智慧なり。此等は
 齊く永久に贖罪の大事業を證明し、世界の在らん限り福音の事實を
 證明すべし。

會教之督基

第三十四章 完全なる教會。

小兒のバプテスマは教へられたりや。教會の政治は組合政治
 なり。共働と擴張。其の歴史は聖書に具備せり。
 吾人は茲に小兒のバプテスマは基督の教會に教へられず、又行はれざ
 りしことを認む。エレミヤ新約に就て語りて曰く「エホバ曰ひたまふ
 見よ我イスラエルの家とユダの家とに新なる契約を立る日來らん、此
 契約は吾が彼等の先祖の手を取りてエジプトの地より之を導き出せ
 し日に立し所の如きに非ず、我彼等を娶りたれども彼等は我が契約を
 破れりとエホバ曰ひたまふ。然どかの日の後に我イスラエルの家に
 立んところの契約は此なり、即ち我律法を彼等の衷に置き、其の心の上
 に録さん、我は彼等の神となり、彼等は我民となるべし」とエホバ曰ひた

まふ。人各其の隣と其の兄弟に教へて汝エホバを識と復た曰はじ其の少より大に至るまで悉く我を知るべければなりとエホバ言ひたまふ(耶三二〇三一—三四)。

希伯來書の記者は如上の聖句を引いて之を福音契約と一致せしめ之を舊約に代れる者と宣べたり(來八〇六一—十三)。新約の特異なる形像の一は新約に在る人々が各其隣と兄弟とを教へて主を識れと言はじ。蓋は少より大に至るまで悉く我を知るべければなりと言はれしことに在りと稱せらる。此點に於て新約は舊約と一致せず。舊約に於て人は誕生に由りて會員となりき。彼等は此の關係の中に生れたり。是故に知解の齡に達すれば主を知るやう教へらる。然れども福音契約に在つては人は基督の信仰に由りて會員となる。彼等は會員となるに先ちて既に主を知ることとを學べり。是故に再び主を知れと

教へらるゝの必要なし。舊約は肉の契約なり。其の會員資格は肉の基礎の上に存す。新約は靈の國なり。其の會員資格は靈の基礎の上に存す。舊約の會員資格はアブラハムの父たることに存す。新約に在つては基督に由りて彼等を養子となせる神彼等の父たることに在り。

使徒行傳に記されたる使徒の三十年の歴史の間に吾人は恒に「聞き且信じてバプテスマを受けたる男女の事を讀めり。何等の場合に於ても吾人は未だ信せざる者のバプテスマを受けたることを讀まざるなり。獄吏は彼直にバプテスマを受けたりと記されたり吾人は又其家族と偕に神を信せりとあるを讀めり。是故に彼の全家彼と共に信じて後バプテスマを受けたるなり。

罪なき者又は信せざる者信する能ざる者にバプテスマを授くるの必

要を主張するは、耶穌と使徒の教訓中に知られざる所の効力を、此の禮典に附加する者なり。同時に其の一切の意味——基督の埋葬と復活とを信ずると云ふ告白を之より奪ふものなり。バプテスマが救罪の完成行為なることは明に教へられたる所なり。小兒には何等の罪なし、蓋は罪とは律法を犯すことなればなり。「律法無き所には犯罪も亦在ることなし」。小兒には何等律法の與へられたるなく、又與へられ得べからず。又何等の服従も彼等に命せられたる物なし。其の無罪と清淨とは基督の稱する所なり。蓋は彼天國に在る者は此の如き者なり」と(太十九〇十四)曰ひ、又汝等改りて小兒の如くならずは、天國に入ることを得じ」と(太十八〇三)曰へばなり。

神の建てたまへる基督の教會は組合政治なり。何等是以上の組織なし、中會大會聖職會議等の其の上に置かれ、之に對して立法權を有する

ものなし。蓋は基督自身が教會の首なるが故なり(弗五〇二三)。個々の會員は神に屬ける王、又祭司たり(黙一〇六)。彼等は「聖き祭司」(彼前二〇五)「忠信なる祭司」(彼前二〇九)と稱せられたり。彼等は王なるが故に、基督の下に其の僕即ち職員を撰むべき絶對權を有す。基督信者が此の肝要なる事實を現實するに至るまでは、多數の人は賤しき宗教的奴隸の境遇に存せんのみ。然れども茲に此の種々の團體の中に協同一致の働あるべきこと、基督の教會の爲に律法を立つるに非ずして、是は禁せられたる事なり、其の幸福を増進し、協同の努力を以て福音を擴張し、神の國を地上に建設すべきことは、許多の理由ありて存す。聖書に記されたる分類に由れば、教會は地方に従ひて「ガラテヤの教會」(哥前十六〇)、「アジアの教會」(哥前十六〇十九)、「ユダヤの教會」(加一〇二二)と云ふが如く區劃せられたるゝ明かなり。吾人は「マケドニアの教會」(哥後

八〇一)と「アカヤの教會」(哥後九〇二)とが、聖徒に事ふること共に共同せること(哥後八〇四)を告げらる。又一兄弟にして其の福音を以て有らゆる教會に頌美を得、又諸教會の爲にパウロとテロスと共に旅行すべく命せられたる者あり(哥後八〇十八十九)此等の人々に就ては「彼等は諸教會の使者なり」と記さる(哥後八〇二三)。此は寄附と役事を共にせる數教會の協働を示す。

基督の教會は此の如く規定又建設せられ、其の簡易なる政體は其の萬國民の中に樹てられ萬の政體の下に生長すべき所の者なりき。是故に之が擴張の爲にせる數教會の共働の概形は智くも其の多様なる事情の下にあり多種なる國民多様なる人種の中に圍まれたる基督信者の善良なる判断に残されたるやう見ゆ。

基督の教會は歴史的組織なれば、其の一切の事項は歴史の光明により

て決せざるべからず。其の作者、其の基礎、其の會員資格、其の組織、其の職員、其の規則、會員の義務、其の制裁、其の報賞等、唯歴史に據りてのみ決せらる。此の歴史は基督教聖書の中に記さる。此の聖靈の記述したる歴史の之を示すこと如何。吾人は之を取つて討論研究の本據となす。過去の討論は全體として教會に就てよりは寧ろ主として種々なる神學の諸の方面に就て費されたりき。基督が一教會を建てたること其の唯一の教會を建てたる事争ふべからず。此の教會の何なるやは、何等宗教又は分派の價値に關する争論に由りて定めらるべき者に非ず。又聖なる真理に關する複雑なる議論も之を決する能はず。蓋し諸教會の改革者なる者ありき。又改革教會の改革者なるもの多々ありき。然れども何人も嘗て基督の教會を改革せんことを企圖せざりき。改革の改革は何等改革を要せざる所の基督の教會に代はる能

はす。基督の教會の中には全き基督の眞理集注せられたり。教會は其の具體の中に聖なる眞理を包蔵す。聖なる組織なるが故に神權の外一切の事物は必ず控除せらる。耶穌基督獨道なり眞理なり生命なり。是故に彼より前に又彼より後に一切の未來に於て何人も神權に由りて教會を建設する能はず。是は眞實なるが故に基督の信者は此問題に就ての最後即ち終極の分解に對し天啓の歴史に對照して其建設に關する眞理を決定し之を其の子基督を經由して神の手より來れるまゝなる其の美と單純に再び返さるべからず。基督は教會を愛して之が爲に己を捨てたまへり「弗五―二五―二七」。基督の教會は完成せり。かくて新約聖書の終結と共に歴史に遷れり。吾人に啓示せらるゝ限りに於ては爾來嘗て天の内地の上なる權威に由りて變更せられざりき。此の基督の教會は何が故に當時の如く其の神聖なる美と

單純とに於て今日到る處に再興するを得ざるや。基督信者は今日同一の基礎の上に建て同一の主同一の名同一の方法を以て撰ばれたる同一の職員を有ち同一の方法に由りて同一の禮典を守り悔改せる信者に會員となるべく同一事項を命じ凡の教會員に彼等が當時生活したる如く今猶ほ生活すべく要求するを得ざらんや。若し是が基督の教會ならずは基督の教會は何處に之を發見し得るや。眞の贖罪者の眞の教會を發見せん爲に天啓の歴史以外に尋ねる事は徒勞に屬す。

第三十五章 基督信者の一致。

一致に對する救主の祈禱。信者の一致は實行し得べく又望まじきこと。分離の惡傾向。信者の合一。

救罪の證據と基督の教會の組織とを研究し畢りたれば吾人は今基督

信者は聖靈の啓導の下に結合したる人民なることを語らんとす。基督の祈禱に由れば、彼等は世界を悟せて之を改心せしむる爲に、其の使徒時代に在りし如く、今日も猶ほ合一せざるべからざることは明白なりとす。吾人は讀ますや、我たゞ彼等の爲にのみ祈らす、彼等の教に因て我を信する者の爲にも祈る。此は皆一にならん爲なり。父よ爾我に在り、我亦爾に在。此の如く、彼等に在りて一にならん爲、且世をして爾の我を遣し、事を信せしめん爲なりと(約十七〇二十二)。

新教の國民が其の進歩を羅馬教會の主權に對する反抗に歸し、新教徒が文明と宗教の主導者たる同時に、其の事業は阻害せられて、教會が一となるまで、即ち基督の教會が其の清淨と單純に反るまでに全く成功すること能はず。事實及び數字よりして、新教諸教會は其の支離せる状態を以て、新教國に於てすら一般の民衆を基督信者と爲すこと能は

す。況んや其の多數の宗派黨派に分れたる間、世界を改化せんとする如きをや。是故に新教國に於ける人民を歸依せしめ、異教國民を基督化する爲に一致は絶對的肝要なりとす。

基督に於ける一切信者が結合して、一體一社會一教會を成すべきことは、基督教聖書の中に明白に提出せられ、有力に解説せられし命題なりとす。

吾人が前に引證したる救主の言語は、甚だ明白に此の問題に於ける聖意を顯證せり。使徒等は、屢次之を命じ、一切の分争は言を極めて之を罪せり。人々己に適するだけ同數の宗派の差別を要することを斷言する輩は、救主の祈禱と正反對の位置に立ち、使徒等の譴責したる所を歓迎する者なり。

救主の此の祈禱たるや、正に其の賣さるゝ前夜に當りて、いとも莊嚴な

る事情の下に發せられたり。彼は約三年間其の政治の原理を發展せり。是は人類の萬殊の事情と必要とに隨ひ其の天性に適合したる救拯系を永久に建設する準備なりき。此の救拯系は其の完全なる組織と無限の動機とによりて、人類の思考に出でたる一切の宗教若くは倫理學よりも一倍の幸福を生ずる物とす。彼は其の智慧ある教訓と慈愛なる實例と之に加ふるに悪鬼を逐出し、盲目の目を啓き、死者を蘇すが如き其の行へる奇蹟の上に顯はれたる神の力を以て其の聖なる威能と權力と對する一切の主張を十分に確立したり。

彼は其の特別なる訓練に服せしめ其の救拯の大事業が彼の死と埋葬と復活と昇天とによりて完成せられたる曉其の王國の事業を之に任すべく、十二使徒を撰立せり。彼自ら己の爲に祈りたる後、次で使徒等の眞理に由りて潔められんことを祈り、而る後、使徒等の言に由りて彼

を信すべき人々の爲に祈りて曰く、彼等が一とならんことを、是は世をして爾の我を遣はし、ことを信せしめん爲なりと。

斯く信する所の一切信者の一致が唯實行し得べきのみならず、又甚だ望ましくして肝要なる目的なりとす。然らざれば救主は之に向ひて祈りたまはじ。神の民の間に分争の必要を主張する人は二個の理由の爲に矛盾せり。第一、彼等は一致に反對して其の反對説を宣べ、同時に一致の爲に祈れるなり。

第二、彼等は一切信者が一團體又一教會に結合することは反對論を立て、基督王國に於ける種々なる宗派と黨派の維持に努め、同時に己が屬する教會に凡の信者が來り合すべきことを説教す、是れ實は一致に反對して説教するなり。彼等は論じて曰く、種々の宗派は互に監視することによりて教會を潔からしむるが故に必要なり。殊に未信者の爲

に必要なり。蓋は彼等若し一個特種の教會の特種の教義に良心より加入する能はずんば己の特種なる思想に適せる物を種々の宗派中より撰擇する特權を有するを得ればなりと。是の如き人は他の場合に於て己自身の信條を論じて他をして己の如く信せしめんと試むるならん。此の如きは其の智慧を以て教會を淨め罪人を救はんとする神の計畫を廢除せんとする者なり。若し此等の宗派が人の子を益する爲に計畫せられたる者ならば人々は何が故に凡の人のをして己が信する如く信せしめんとするか。若し宗派にして有益ならば救主が其の新職に於て其の信者の中に分争の肝要必要あることを全然看過し、反りて其の王國の眞の利益を誤認して一切の信者が彼と其父と一なるが如く一ならんことを祈りしことは奇怪ならずや。而して他の場合に於て彼が和平を求むる者は福なり蓋は神の子と稱らるべければな

り」と曰ひしも亦然り。一切の眞の信者の中には、一致は單に希望すべきのみならず、又成就すべき者なり。其の希望すべきは「一致は力を生ずる」が故なり。是は一切の自然法國民の歴史、又神の語よりして明示せらる。全能者は恒に人が正義を爲さんとするときは之をして一致せしめ、其の不義に従ふときには之をして分裂せしめたり。彼は「バベル」の塔に於て宗派分争の實例を示し、其の民を黨派に分割したり。彼等は其の言語を混淆せられたるが爲に分離し、其結果として其の目的を達すること能はざりき。「合へば立ち、分るれば仆る」と云ふ此の格言は家庭と國家に於けるが如く、宗教に於ても亦眞理なり。ダビデ曰く「兄弟和ぎて住むことは宜はしく喜はしき事なり」と。基督教徒と稱する者の中に見ゆる分争の結果は「見苦しき者」はあらず。

吾人は分立の悪傾向を記せんと欲す。其の原因たる者甚だ多し、即ち不和、敵愾、争論、又同じ神を拜することを告白し、同じ天國に詣るべき運命を有する所の人々に對して、恒に顯はされたる惡意等なり。

分立は又無數の信條と宗派の特異點を主張し、之を發揮せんが爲に無量の時間を空費する原因となる。此時間は宜しく公敵を退け、救拯の知識を宣布し、弱者を鼓舞し、不幸者を訪問する爲に費すべき者なり。

分立は又無用否、無用よりは有害なる信條、儀式、信仰の告白等を發布し、時として是一個の村落に於て一字の會堂が、其社會の全體の必要に對ふるに足る處に、數宇の會堂を建て、又各宗派の特別なる教理を主張し、辯證する爲に同數の説教者を使用する爲に數百萬金を徒費す。是は宜しく貧者を助け、孤兒を養ひ、宣教師を派遣し、異教國に聖書を頒布する爲に費すべき者なり。他の世俗の團體に於て、斯の如く愚なる事を

演することなし。

分立は説教者をして自由に神の言を述べしめず、蓋は人々をして宗派的偏見を持せしめ、教會の門戸を開放せしめざるが故なり。是故に神は救拯の手段として説教を設定したるに拘らず、分立は基督が爲に死にたまへる無數の靈魂を妨げて救拯を受くるを得ざらしむ。

分立は其の如何なる處に存し、如何なる事情の下に發見さるゝに拘らず、罪なり。最大の罪なり。是は全然又永久に福音の神髓と基督教系に背反せる者なり。是は教會政治の内に新規にして未だ試験を経ざる規則を課する者なり。是は聖なる制度、即ち教會を廢するに自家發布の法典を以てし、信仰の家族を破壊して種々の争を好む黨派となすものなり。是は基督の勝利を妨げ、福音の權威を弱くし、罪人の改悔を沮み、基督教の證據の効力を減し、不虔者に藉すに最も恐るべき

武器を以てし、主の祈禱の目的に反し、聖書の知識の進歩を害し、人間の劣情を喚起し、之を奨勵し、天國の正當なる住民よりして、其の天國を奪ふ者なり。

基督之教會

此の如き結果を生ずる所の宗教が、果して福音の中に顯はるゝ所の耶穌基督の宗教なるを得るや。平和の君人類に對する善意と愛の作者たる彼其人の宗教なるや。斯の如き事物は現時の基督王國の狀態の破壊性破壊力而して又其惡結果なりとせば、此の世界に儀文に於ても精神に於ても、教訓に於ても、實行に於ても、清淨なる原始的使徒的基督教を回復せんと務むるは、神の子たる者の避くべからざる又至要の義務に非ずや。

聖書に於ける何等の眞理も、聖徒の一致より著明なるものある無し。何等の要點も、此事よりも頻繁に、此事よりも有力に、使徒等の論じたる物あるなし。何等の義務も、信者の一致より、壯嚴に頻繁に力言せられたる物あるなし。彼等は此の一致を高く聖なる土臺の上に置けり。

基督之教會

第一は彼等の靈的宗教の一なること。「汝等彼に來り活石の如く建られて靈の室となり、亦潔き祭司となり、耶穌基督に由て神に悦ばるゝ靈の祭物を獻くべし」(彼前二〇五)。「されど此人は一次罪の爲に一の犠牲を獻て、窮なく神の右に座せり。蓋は彼一の獻物を以て潔る者を永遠全成すれば也」(來十〇十二—十四)。「夫神は一なり、又神と人との間に一の中保あり、即ち人なる基督耶穌なり」(提前二〇五)。「汝等靈を一にして堅く立ち心を同ふして福音の信仰の爲に力を協せ云々」(腓一〇二七)。

第二篇 第三十五章 基督信者的一致

四百二十

死より甦され給ひし者に適て、神の爲に果を結ばんとなり「羅七〇四」。

第三は其望の一なること。「體は一靈は一なり汝等の召れて有つことこの望の一なるが如し」弗四〇四。

第四其の會員として屬する團體の一なること。「體は一にして多の肢

あり、一體の凡の肢は多けれども、一の體なり。基督も斯の如し」哥前十

二〇十二。「我等一體に多の肢あれども、其の用を同うせざる如く、各人

基督に於て一體たれば、亦互に其肢たるなり」羅十二〇四一五。

第五之を屬ますところの靈の一なること。「或はユダヤ人或はギリシヤ

人或は奴隸或は自主に拘らず、我等皆一靈に在てバプテスマを受け、一

體となり、又皆一の靈を飲り」哥前十二〇十三。

第六其のバプテスマの一なること。「それは凡バプテスマを受て基督に入

る汝等は基督を衣たる者なればなり。斯る者の中にはユダヤ人又ギリ

リシヤ人或は奴隸或は自主或は男或は女の分なし、蓋汝等皆基督耶穌に在て一なればなり」加三〇二七二八。「平和といふ繋の中に務て靈の賜ふ所の一なるを守るべし、……主一、信仰一、バプテスマ一、神即ち萬人の父一なり。……愛を以て眞理を行ひ長て凡のこと首なる基督に效はしめんが爲なり」弗四〇三一五、十五。是の如きは使徒の時代に於て完全なる一致の帶を成せる者なり。

第三十六章 一致は何を暗示するや。

一致の基礎。一の告白。包含する所と排除する所。一致の基礎は何ぞや何人も一致の計畫を成就すべき基督の才幹を疑ふこと能はず。彼は**大智又聖善**なりき。是故に其の組織は**完全**なり。彼の計畫の中に明示されたる一致の基礎、又使徒の言は**完全に**基督の

第二篇 第三十六章 一致は何を暗示するや

四百二十一

意志を表はせり。彼曰く「汝等に聽者は我に聽くなり汝等を棄る者は我を棄るなり。我を棄る者は我を遣はし、者を棄るなり」〔路十〇十六〕。「是は汝等が語るに非ず、汝等の中に語る所の汝等の父の靈なり」。是の基礎は權威ある者なり。耶穌曰く「天のうち地の上の凡の權を我に賜れり、是故に汝等往て萬國の民にバプテスマを施し、之を父と子と聖靈の名に入て弟子とし、且我が凡て汝等に命せし言を守れと彼等に教へよ」〔太二八〇十八—二十〕。使徒等は此の遺命に聽從して其の生涯を之に費せり。

使徒の言も亦完全なる組織を會蓄せり。「聖書は皆神の默示にして、教誨と督責また人をして道に歸せしめ、又義を學ばしむるに益あり。是神の人の完全を得て、諸の善事を行ふに缺なからん爲なり」〔提後三〇十六—十七〕。ヤコブ曰く「完全き自由の律法を切々に觀る者」〔ペテロ曰く「神其

の權威に從ひて生命と敬虔に關はる凡の事物を我等に與へたり。又曰く「主の律法は完全にして靈魂を回す」と。然れば是の神の言は一致の基礎なり。基督信者の一致の基礎は、基督教的基礎ならざるべからず。異宗異流の一致を議する爲に召集せられし一切の會議の中に、彼等は決して此の基督教的基礎を採用したる者なし。彼等は恒に一致の基礎として人爲の基礎を設けんと試みたり。是故に其の計畫は恒に過まれり、基督の教會は聖なる制度なり。是故に又聖なる組織を有せざるべからず。基督教會の基礎は父なる神自身の据たる所、而して試験を経たる貴とき堅固なる基礎なり。神の家族の永久の平和と一致を保つべき永久の結合の基礎として、何人も他の基礎を置くこと能はず。

宗教上の觀察點より見れば、基督が世の光なること、彼の教會に於て彼

獨り王にして首なること、彼獨り信條を命ずる威能と其の權力を有すること、彼獨り儀式、典禮を命じ、一致の條件又教會員たる條件を定むる權能を有すること、是故に何等の教權者も、王侯も彼の王國に於て臣民の良心を束縛する所の律法を造るべき權利を有することなきことか、早晚凡の人に由りて許されざるべからず。

凡の系統に中心あり。太陽は太陽系の中心なり、神の子は基督教系の中心なり。基督教系の中心と基督教會の基礎は同一なり。パウロ曰く「既に置かれたる物の外他の礎を誰も置くこと能はず。此の礎は耶穌基督なり。彼は隅の首石なり」と。耶穌の「我が教會を建ん」と言ひしは彼の聖なる人格と其の聖なる使命に於ける信仰の告白となりき。是故に吾人は讀む「耶穌カイザリヤ、ピリピの方に到りしとき、其弟子に問て曰けるは、人々は人の子を誰と言や。彼等曰けるは或人はバプテ

スマのヨハネ、或人はエリヤ、或人はエレミヤ、又預言者の一人なりと言へり。彼等に曰けるは汝等は我を謂ひて誰とするや。シモンペテロ答けるは汝は基督活ける神の子なり。耶穌答て彼に曰ひけるはヨナの子シモン、汝は福なり。蓋血肉汝に示せるに非ず、天に在す吾父なり、我及汝に告ん、汝はペテロなり、我が教會を此の磐の上に建つべし。陰府の門は之に勝つべからず」と(太十六〇十三—十八)。

然れば茲に基督教系の十分なる啓示あり——基督教の信仰の十分なる告白あり、耶穌が基督神の子なりと云へることの眞理、是れ基礎にして、中心的又根本的眞理なり。神より人に對する默示の全部、此の眞理に聚中し、其の一切が此の上に存せり。

耶穌の神性あること、神の子たることを信すれば、其の支配する權威と權利とが許認せらる。舊約の豫言は彼を指示し、彼に於て其の成就を

待つなり。彼の昇天以後に於ける使徒の書翰は、彼を指顧せり。是故に一切が隅の首石たる基督に依頼せり。耶穌が基督神の子なりと云ふ、此の中心真理は一切信者に對する一致の基礎として、世界の前に提出さるべき真理なり。神に來る人は其の教會に受けられ得る前に、先づ此の真理を受けざるべからず。彼此の真理を接せば又基督自ら之が作者たる所の其の教系の全體を受くるなり。

信仰の告白を此の一大真理に限ること、反對して、候補者を受くる前に、諸の疑問を設けたる者あり。彼等は此の「善き告白」を以て満足せざるなり、猶ほ前の比喩を用ひて言へば、若し吾人或る人に問ふて、彼に太陽を太陽系の中心、又光、又熱なりと信するや否やと問はば、彼必ず然りと曰はん、更に其の太陽は太陽系の一切の遊星を照すと信するやと問はば、彼又然りと曰はん、更に汝は其の太陽が此の地球を照すや否や、亞

細亞、亞非利加、歐羅巴、亞米利加を照すや否やと問はんか、何故に此の如き疑問を提出するや。彼は第一命題に於て、一切を告白したるに非ずや。若し太陽が太陽系の中心、又光、又熱たるならば、是は又一切の遊星又吾が地球、又地球の各部分の光と熱に非ずや。是故に基督を告白するは、彼が作者たる所の全系を告白するなり。然ば凡人の前に我を識ると言ん者を、我も亦天に在す我父の前に之を識すと言ふべし（太十〇三二）。基督に於ける信仰は使徒時代に於ける教會員たるべき凡の候補者に命せられたり。パウロ曰く「蓋若汝口にて主耶穌を認はし、又汝の心にて神の彼を死より甦らし、とを信せば救るべし。夫人は心に信じて義とせられ、口に認して救はるゝなり」と（羅十〇九、十）。ヨハネ曰く「此書に録さるゝ外、猶許多の奇跡を耶穌弟子の前にて行り。此書を録せるは汝等をして耶穌の神の子基督なる事を信せしめ、之を信じ其

會教之督基

名に因て生命を得させん爲なり」と約二十〇三十三一。是等の聖句は吾人は何を信すべきやと云ふ事又信仰の目的は何なりやと云ふ事を示せるなり。第一何が故に信するや、此書を録せるは汝等をして信せしめんが爲なり。第二吾人は何を信するや、耶穌の基督神の子なる事なり。第三信仰の目的は何なりや、其名に由りて生命を得んが爲なり、凡子をみて之を信する者は永生を得、是れ吾父の意なり。約六〇四十。是れ神の信者を作りたまふ方法、其の信者に命じて信せしむる事、物、信者の信仰の目的なり。他の語を以て之を言へば人が神の言に由りて信すること、其の耶穌の基督神の子なることを信すること、其の信じて彼の名に由りて永生を得んこと、是れ神の意志又目的なり。是の基礎

會教之督基

は神と天と聖靈と神より人に及ぼせる全き啓示と、教會と禮典と、基督に於ける一切の精神的祝福を含む。同時に又一切神より來らざる事を排す、靈なる者は悉く之を含み、靈ならざる者は悉く之を排す。是れ人類の爲せる最大なる告白なり。天に於て榮光を受け、不死の賜を受け、無限の歡喜と永遠の祝福に圍繞せられたる人は、是れ唯此の重大なる告白を正當に領會し、之を遵奉したる者なりとす。是故に此の一致の基礎は使徒の言、永劫の真理を有する聖書なり。基督は此の基督教系の建られたる磐なり。此以外の基礎に建てる一切の教會は、地上より死滅すべし。「吾が天の父の植ざる木は、抜かるべし」(太十五〇十三)是は信仰界を結合するに十分廣く、十分深く、十分大なる基礎に非ずや。是の制度ほど完全に人性の真髓に恰當する物他に之

あることなし。世界の一部分の人民に非ず、又一人種一時代に非ず、此の地球の全部凡の人種凡の時代に恰當せり。是は人をば其の嘗て在りし者、今在る者、後在るべきものとして、其の全き運命の光を以て視る。基督教は有らゆる家族より聚められたる完全なる一大家族として視る。此の一大家族は一の土臺に立ち、主一信仰一バプテスマ一靈一遺業一神即ち萬人の父一を有せり。萬物此の中に一致調和せり。分立は廢斥せられ、合一は至る所に教へらる。是は一の聖書一の救主一の禮拜一の審判者一の天國を示せり。故に是こそ信者の一致の唯一の基礎、基督教會の唯一の憲法なれ。

「此の文明時代と國民の内に、聖書以外に世界に存在せる一個の書類あり。其表紙に題して「教會の憲法」と曰ふ。今日凡の書類又憲法と呼ばれたる者の中に、神自身之が作者、又完成者たる三の物あり。彼は人に

も、又天使にも、宇宙の憲法、又人身の憲法、神の教會の憲法を制する自由を與へたまはず。何が故に人は宇宙の憲法の起草を委任せられざるか。又何が故に己の身體の爲に憲法を制定することを許されざるか。至當且有効なる理由を與ふるは容易なり。此の如く吾人は人が教會の憲法の制定を委任せられざる道理を其の全き無能力の中に發見し得べし。彼は前の二者に於ける如く、後の一者を制定するにも不全なり。若し或る一人にして基督の體即ち活ける神の教會に關し、少明瞭精確の見解を有するとも、之が憲法を制する事業に對して其の不及を感すべきこと、猶ほ生理的、智識的、道德的に自個の身體、又神の宇宙の爲に憲法を制定するの不及を感ずる如けんのみ。

教會即ち眞の救主の眞の教會は光榮なる制度なり。是故に基督時代の興るに先つて、是は既に勅命せられぬ。是れイスラエルの最も勝妙

最も天^{てん}使^し的^{てき}なる詩^し人^{じん}の一^{いち}なるイザヤの預^よ告^{こく}する所^{ところ}なり、曰^{いは}く、「二人^{にり}の嬰^{えい}兒^に我^{われ}等^らのため^{ため}に生^うれたり。我^{われ}等^らは一人^{ひとり}の子^こを與^{あた}へられたり。政^{まつりごと}治^ちは其^{その}肩^{かた}に在^あり、其^{その}名^なは奇^き妙^{めう}又^{また}議^ぎ士^し又^{また}大^{だい}能^{のう}の神^{かみ}、永^{えい}遠^{とん}の父^{ちち}、平^{へい}和^わの君^{きみ}と稱^{なづ}へられん。その政^{まつりごと}治^ちと平^{へい}和^わとは増^まし加^くはりて窮^{きつき}なし」と(賽^{さい}九^く〇六^{ろく}七^{しち})。彼^{かれ}は當時^{たうじ}に於^おける福^{ふく}音^{おん}制^{せい}度^ど、永^{えい}劫^{こつ}の王^{わう}國^{こく}の建^{けん}設^{せつ}者^{しや}なり。宇^{うち}宙^{ちゆう}の中^{ちゆう}、最^{たつと}も貴^{たつと}く最も嚴^{げん}かなる稱^{しょう}號^{ごう}、彼^{かれ}の法^{はふ}冠^{くわん}と王^{わう}冠^{くわん}とを圍^{めぐ}繞^りす。此^こ等^らの稱^{しょう}號^{ごう}の中^{ちゆう}、吾^ご人^{じん}に取^とつて言^いふべからざる趣^{しゆみ}味^みある一^{ひと}あり、「吾^ご人^{じん}の信^{しん}仰^{やう}の作^{さく}者^{しや}又^{また}完^{かん}成^{せい}者^{しや}」と云^いふ是^これなり。然^{しか}らば人^{ひと}如^{ごと}くにして耶^い穌^よ基^き督^{とく}の教^{けう}會^{かい}に對^{たい}して憲^{けん}法^{ぽう}を起^き草^{そう}するを得^えんや。若^しし之^こを爲^なすを得^えば人^{ひと}は天^{てん}國^{こく}の神^{しん}政^{せい}、又^{また}神^{かみ}の宇^{うち}宙^{ちゆう}の爲^{ため}に容^{よう}易^いに憲^{けん}法^{ぽう}を制^{せい}し得^える理^りなり。………基^き督^{とく}教^{けう}會^{かい}の憲^{けん}法^{ぽう}を制^{せい}するこは抑^{おさ}も如^{ごと}く何^{なに}なる事^じ業^{ぎやう}なるや。天^{てん}の會^{かい}議^ぎ開^{ひら}かれ、ミカエ^{ミカエ}ル、ガブ^{ガブ}リエ^{リエ}ル、ラ^ラフ^{ラフ}ハ^ハエ^エル、其^{その}他^た凡^{たふ}の天^{てん}使^しが召^め聚^{じゆ}せられて、何^{なん}年^{ねん}討^{たう}議^ぎを盡^{つく}すと

も、彼^{かれ}等^らは基^き督^{とく}の教^{けう}會^{かい}の爲^{ため}に憲^{けん}法^{ぽう}を制^{せい}定^{てい}すること能^{あた}はざるべし。設^たし主^{しゆ}に贖^{あがな}はれたる者^{もの}を無^む窮^{きゆう}の平^{へい}和^わと一^{いつ}致^ちの中^{ちゆう}に結^{むす}合^{ごう}し、粘^{ねん}着^{ちやく}し、調^{てう}和^わせしむるを得^えたりとするも、彼^{かれ}等^らは制^{せい}度^どを立^たつること能^{あた}はず。是^この故^{ゆゑ}に主^{しゆ}自^{みづか}ら契^{けい}約^{やく}を作^{つく}り、嚮^{きやう}導^{だう}となり、立^{りつ}法^{ぽう}者^{しや}となり、基^き督^{とく}教^{けう}系^{けい}の作^{さく}者^{しや}又^{また}建^{けん}設^{せつ}者^{しや}となれり。此^この憲^{けん}法^{ぽう}の上^{うへ}にのみ、此^この教^{けう}會^{かい}は建^{けん}つことを得^え。此^この憲^{けん}法^{ぽう}、此^この基^き礎^そこそ、基^き督^{とく}教^{けう}會^{かい}の唯^{いっ}一^{ぱつ}の基^き礎^そなれ。基^き督^{とく}、然^{しか}り唯^た一^{いつ}基^き督^{とく}を、して一^{いつ}致^ちの基^き礎^そたらしめよ。然^{しか}らば一^{いつ}切^{せつ}の國^{こく}民^{みん}、時^じ代^{だい}境^{きやう}遇^ぐに在^ある一^{いつ}切^{せつ}の基^き督^{とく}信^{しん}者^{しや}は、一^{いつ}個^この偉^ゐ大^{だい}神^{しん}聖^{せい}、幸^{さう}福^{ふく}なる家^か族^{ぞく}を造^{つく}るを得^えるなり。

第三十七章 分争の性質

分^{ぶん}争^{しやう}の原^{げん}因^{いん}。信^{しん}條^{てう}。信^{しん}條^{てう}は制^{せい}裁^{さい}に必^{ひつ}要^{やう}なるか。是^こは何^{なに}故^{ゆゑ}に拒^けむべきか。

次に吾人は分争の原因に注意すべし、茲に吾人は分争は基督の教會より離るゝ爲に興されたることを語らんと欲す。一切信者は原始の信仰と原始の習慣に返るべきなり。今日人の良心を束縛する物にして、使徒の言に含まれざる物二あり、——人爲の信條と宗派的名稱是なり。基督は其の祈禱中に使徒の言を基礎と定めたまへり。是故に一切他の一致の帶を拒絶す。

「信仰に關する人爲の信條と告白とは教會の書類權威を有する或る會議の心情意志、一致の則として記されたる物、人物と事物と之に由りて驗され、褒められ、貶さるべき物なり。是は人爲的と稱はる。單に其の人間努力の産物なるが故のみならず、又其の人間の權威の結果なるが故なり。何人も道理に於ても真理に於ても、聖なる權威を彼等に歸する能はず。蓋は何人も之が制作の爲に聖なる教訓又命令を生ずる能

はず、何等の使徒預言者、又傳道者も一の教會社會、又會議に向ひて此の如き書類を造るべき權威を興へざるなり。何等人間以上の權威を彼等に興ふる爲には、四個の事件必要なり。第一聖なる教訓が之を作べく命すること、第二之を作るべき人物を撰むこと、第三其の事業の完成さるべき時と時期を定むること、第四基督の聚會に命じて之を作りし目的に従ひて之を受け、之を用ひしむること。此の如き聖なる準備と議定あるに非ざれば、此等の書類は徒にシオンシオンの立法者、又王の事件に對し、擅に干渉する者、天の内地の上の凡の權威を有する者の職分を覆へさんと試むる者として思惟せられざるべからず。此の如きは神の聖壇に異火を獻げ、其の命せざる異香を焚く者なり。神の禮拜を定むるは神自身の權利にのみ屬する物なり、此の如きは實に其の生ける宣託と其の使節の完全と敬信とに對して提出したる非難、反對に外な

らざるなり。……若し主が之を聖書の縮寫天啓全體の肖像教會の一致と共同の正當なる基礎と考へたまひしならば、パウロ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ其他使徒總體こそ其の事項の主要を示して、凡の人に命じ一般の基督教會および特別なる聚會の契約又は憲法と思はしむべき所の人物なりしなれ。然して其時吾人は權威ある信條——信仰に關する神の律法即ち之に由つて一切を容れ一切を棄る所の者を得べし。彼の然か爲さざりしことは、其の死すべき墮つべき人の之を爲すべからざる最良の證據を世に示せるなり。假に主自身吾人は主之を能したまふべしと思ふ其教理の綱領を新約の二頁に示したりと想像せよ。其の臣民に如何なる結果を生すべきか最も有害なること明なり。是は吾人をして故なく天啓の他の部分を研究するを廢せしめん。多數は其の綱領を暗記して他の聖なる真理に對しては絶對無智のまゝに

満足して終ること疑なし。此の如きは正に人爲的信條の結果に非ずや。此等の信條は聖書に於て學ぶべく必要なる個所を示さんとして、反りて聖書を讀むことを閉却せしむる物なり。信條は靈的生長及び靈的智識の發達を阻ぐ。若し一人新なる光を得たりとせんか茲に彼等が異端として視られ異端として待遇せらるゝ虞あり。信條は權威なき立法の結べる實なり。信條が聖靈を受けざる人の立法的議定なることは、何人も疑ふ能はざる所。是等は教會の法律として造られたり。而も教會の聖なる憲法を去て、人爲の製作を土臺とすることは、叛逆に非ずや。基督敎の一致は決して信條が其位置を保てる間に行はるべからず。是等は正に此の如き一致の妨害する者なり。是等の交際に關する無權威の條件は決して凡の人の同意する能はざる所なり。彼等は交互に矛盾して基督の教訓と一致せざ

るなり。是故に彼等は廢棄せざるべからず。然らざれば信者の一致は行はるべからざるなり。

信條は其の聖書よりも明白なる故に之を用ふべしと云ふ論あり。若し此事真ならば人は神より智にして神より仁なり。若し神聖書をし一層明白ならしむるを得ず又之を欲せずんば彼は仁者ならざりしなり。然れども若し彼聖書をして一層明白ならしめんと欲して之を爲す能はずんば彼は智慧に缺くる所あるなり。此くして人若し神の之を爲したるよりも更に之を明白ならしむるに於て成功せば彼は神より智者にして神よりも仁者たるなり。默示を受けざる人にして默示に由りて導かれ啓かれたる使徒等よりも一層明白に一層精確なる見解を有したるべきか。彼等は基督と其の使徒が之を爲せしより一層明白なる一層平易なる言語を以て自ら語り得るか。若し然らば默

示を受くるの價値は安に在りや。然れども神は其の一切の子輩よりも智にして仁なり。此世の智慧は神に取りては愚なる者なり。

又或る人々は信條が教會の一致に必要なりと主張す若し是事真ならば基督の教會は之なくしては一致すること能はざりし當なり。然れども一致は之ありき。使徒時代には一人爲的の信條之なかりき。彼の使徒信條と呼ばれたる信條が彼等が其の血を以て其の立證を押ししたる後多年を経て作られたる者にして何等聖なる權威權力を有せざることは言を待たざるなり。第一の最も重要な信條の作られたるは基督以後三百二十五年ニカヤの會議に於てなり。謂ふ所のニカヤ信條是なり。分争は此時より興れり。而して信條を造るの事業は其日より今日に及べり唯亞米利加一國に於てさへも約二百の基督信者の宗派あるに至れり。基督教の最も純粹なる時代は基督の外何等

の信條之なかりし時代なりき。若し一切信者が當時一致するを得たらんには、同じ基礎の上に一切が今日一致する能はずとせんや。信條は教會を一致せしめずして、反つて分争を助くるなり。ウエストミンスター^{ウエストミンスター}の信仰の告白よりして、幾何の宗派の起りたるか。看よ十二種の長老教會あり。是皆此一個の信條より起り、之を異様に説明したる者なり。メソヂストの信條は十七個の異種を生じ、ルーテル派は五個の大團體と、十六個の獨立教區に分れたり。ニクリスチアンアドボケート^{ニクリスチアンアドボケート}紙上に載りたる博士エチケ、ケール^{エチケ、ケール}の統計。此他一切の信條亦皆然り。是故に信條は信者を結合せずして、反りて之を分裂せしむと云ふ結論を免るべからず。

又信條は制裁の爲に必要なりとこれが辯護を爲す者あり。若此事然りとせば制裁は信條無くしては行はれざりし當なり。然れども行は

れたり。使徒時代には會員は排除されたり。「兄弟よ我等主耶穌基督の名に託て汝等に命ず、妄に行む諸の兄弟に遠かるべし」と撒後三〇上の猶ほ哥前第五章を見よ。聖靈の教訓は獨り不徳の會員を處分するに足るのみならず、又妄偽の教師を試むべき標準を供給す曰く「汝は曩に夫の自ら使徒なりと稱て實は使徒に非ざる者を試みて、其の妄言を見あらはせり」と(黙二〇二)ヨハネ又曰く「其靈神より出るや否を試むべし、多の僞預言者出て世に入りたる故なり」と(約壹四〇一)若し新約中に妄に行む會員を除くべき何等の律法なくんば、此物如何にして信條の中に來りしや。信條は蓋或は聖書の教理を含めることもあるべし。然らば何故之を採用するや。是は徒に聖書の謄寫に非ざるか。若し彼等が此の教理を含まずんば、是は神の言に附加するなり。人皆曰く信條の教理は聖書と同じと。然らば何故直接に神の言を取つて満足

せざるや。若し基督教の聖書が信條と正に同じくして、而して教會が制裁を施すに聖書を以てする能はずんば、如何に信條を以て之を施すことを得んや。

又若し吾人が信條を有つべからずんば、又宗教的問題の爲に著はされたる書籍をも有つべからずと云ふ反對論あり。然れども書籍は心に傳ふる爲に記され、信條は良心を束縛す故に説教すること又は持論を吐く爲に書籍を著すことと此の如き持論を以て教會員たる條件として人を束縛すること、其間に較著なる差別あり。吾人は持論又は書籍を公にするに反對せず。公にされたる此等を使用すること、教會員に權力ある物として之を彼等に課することに反對す。書籍は他人の上にて何等權力を主張せず。何等權威を奪はず、何等良心を束縛する所なし。——信條は之を爲す。

然れども猶人爲的信條の辯護者は反對論を主張す、曰く信條に反對する人々も又其の心中に信條を有す。彼等の聖書の解釋は即ち人爲的信條なり。二者の差は唯一は書かるれども、他は記憶に留めらるゝ事なりと。此の論理の論證する所は是なり。世界に何等記したる信條の如き者なし、蓋は人皆各自の信條に就て或る見解を有する故なりと。而して若し此の論理が眞ならば、其の見解が信條にして書籍其物に非すと云ふことなり。然れども原始の弟子は、人爲的信條無くして聖書を解したり。是故に吾人も之なしに聖書を解し得。

人爲的信條は有らゆる一切の事情の下に反對すべし。第一基督の聖書が完全なるが故なり。第二若し信條が聖書より多くを包含せば眞正ならず。是故に反對すべし。第三若し信條が聖書より少く減縮したらば眞正ならず。是故に反對すべし。第四若し信條が或る點に於

て聖書と差がは、眞正ならず。是故に反對すべし。第五若し信條が正に聖書に均しからば無用なり、蓋は聖書あるが故なり。是故に有らゆる一切の事情の下に信條は反對すべき物なり。

基督に於ける凡の信者は決して如何なる人爲的信條に於ても一致せず。又一致するを得ざるなり。假にカルビン派が其の信仰の告白を棄て、其の規律に於てメソヂスト派に一致すべく命せられたりと想へ、彼等は必ずや其の規律よりもカルピン派の告白を擇ぶ故に反對すべし。彼等は何が故に之を擇びしか、其の一層聖書と一致せるが故なり。而して又若しメソヂスト教徒が其の規律を置て其告白に於てルイナル信者と一致せよと命せらるれば亦然らん。彼等は曰べし、吾人はアウグスブルクの信仰告白よりも寧ろ吾人の規律を擇ぶと。何が故か其の一層聖書と一致せる故なり。今若し凡の宗派が一層聖書に

近きが故に其の信條を擇ぶと云は、何が故に聖書其物を採用せざるか。彼等は皆其の信條を聖書より採りたることを主張す。然らば何故に之を返還して以て一致せざるや。

人爲的信條は明白に神の言に由りて禁せられたり、固く禁せられたり。パウロ曰く「汝先に我に聞し所の眞の言の模楷を保つべし」(提後一〇三)。

三。ユダ曰く「聖徒が一たび傳へられし信仰の道の爲に力を盡して戦はん事を汝等に勸む」(猶三)。

パウロ又曰く「是故に兄弟よ汝等堅く立ち、且或は我等の言或は我等の書に因て教を受けたる傳を堅く守るべし」(撒後二〇十五)。

神の言に亦曰く「此は我が愛子なり汝等之に聞くべし」と。聖書を模楷として固く守るべし、防ぎ守るべし、之に服従すべしと命せる此等の聖句は最も明白に一切の他の信條を禁遏す。最後に吾人は此點よりして吾人は彼は「教會の王」「祭司」「豫言者」たる者を廢するに

傾ける者なることを斷言す。吾人は神よりして彼に聞けと命せらる。彼は最上元首、統御者、信仰の作者、又建設者なり。一切の信條は職員シムラの完全體を有する新政府の中心、一切の他の宗教團體組織シムラと關係なき全然獨立したる團體を組織す。其の名稱、其の憲法、其の法律、其の職員は聖書の知らざる所なり。彼等は其の自家の權威を以て會員を或は入れ、或は出すなり。人爲的ヒトツクリの信條は悲痛の情を以て見るべし。若之を新約と比較するときは、如何に憫然なる者なるぞ。信條作者は耶穌基督と父と聖靈とを各數行の文字を以て定義を下し、而も形而上ヒトツクリの名稱を用ひ、其の神と其教主の説明に同意せよと他人に要求す。彼等は此くして神に就て學ぶことの僅少なること、彼の太陽の研究者が其の光榮なる發光體を指して直徑約一呎の圓なりと教へられたる類に過ぎず。

第三十八章 宗派心

宗派シムラの名稱は審かる。宗派は基督の教會の分枝なるか。統計は世界改心の爲に一致の必要なることを顯す。一致の性質。次に吾人は黨派シムラの名稱が信者を別ち分争を起すべき傾向を有することを語らんとす。人爲的ヒトツクリの名稱は人爲的ヒトツクリの信條に隨はざるべからず。基督信者の人爲的ヒトツクリの名稱の上に一致する能はざるは、猶ほ人爲的ヒトツクリの信條の上に於るが如し。宗教組織の名稱は之を用ゐる團體を審く。此等の一個も新約中に發見すること能はざるなり。吾人は教會「基督の教會」「神の教會」「基督の弟子」又「基督信者」などあるを讀む。然れども「監督教會」「長老教會」「メソヂスト教會」など云ふを讀まず。然れども人は此等の名稱に固着し、聖靈の全權ある者の如く之を頌榮せり。宗派の名稱は聖靈

第二篇 第三十八章 宗派心 四百四十八

の審く所なり。パウロはコリント教會を責めて斯の如く曰へり「汝等の中に嫉妬と紛争あり、此汝等肉に屬て人の如く行ふに非ずや。我はパウロに屬、我はアポロに屬といふ者のあるは、これ汝等肉に屬するや」と哥前三〇三。彼は茲に獨り基督信者の中なる一切の紛争を責むるのみならず、又彼等は人に從ひ人為的名稱を負ふ權利なきことを宣言せり。カルギン信者、エスレー信者、ルーテル信者、其他同一様なる名稱は、一切基督信者の爲に廢せられざるべからず。吾人は教會は新婦にして羔の妻なることを告げらる。此の比喩は基督信者てふ名稱以外の雜多の名稱を探るところの此等の人を如何なる位置に置くとするぞ。有夫の婦人が其夫の名稱以外の名稱を取らば、此は彼を辱しめ之を拒む者に非ずや。「新婦」教會「羔の妻」たる者の人的名稱を探るは主を辱しむるに非ずや。

茲に此等多様なる名稱を辯護する者あり、彼等は基督の教會を説明するに樹を以てし、宗派の差別を枝と呼べり。彼等は此は此の枝の中に一切正統的、又福音的宗派を收む。今若し一切の正統的教會が樹の枝ならば、其の樹は一の幹又體をも有たざるを知るは、一考を要するまでもなし。若し彼等が凡て基督の教會の枝ならば、基督の教會は何處に在るや。此の如き木は一切唯枝のみあり。何等の幹あることなし。此等の教會は基督の教會の枝と呼はる。然れども聖書に記されたる何等此の如き枝あることなし。耶穌基督は此等の分枝制度に就て一語言ふ所なし。彼曰く我は「葡萄樹」汝等はその枝なり。「其の個々の會員に語りて曰く、人若し我に居り我亦彼に居らば多の實を結ぶべし。人若し我に居ざれば離たる枝の如く外に棄られて枯るなり」と約十五〇五六。教會に非ず唯個人が棄らるゝなり。基督は體なり。各個

信者は其體の肢なり。然れば此等の權威なき宗派は、基督教會の枝に非ず。此等宗派は一も基督の教會に非ず。彼等は唯枝たることを主張するが故なり、又基督の教會は此種の一枝をも有せざるが故なり。
(或る宗派的名稱を用ひたるは、特に彼等を指摘せるに非ず、唯例として引用せるなり。)
 メソヂストの信仰、長老教會の信仰、監督教會の信仰等が、人を救ふに必要なる物に非ずと斷言するも不可なけん。然れど是は此等の宗派に屬する者は、一人も救はれざることを證する者に非ず。蓋は救はるべき人々は宗派的信仰に由らず、唯基督の信仰に由りて救はるゝが故なり。凡の宗派はメソヂスト、長老、又監督教會信者たることなくして基督信者たることを得ることを許す。人皆基督の最初の弟子は是等の宗派の孰にも屬せず、唯基督信者なりしことを許す。今や目的は人を基督信者となし、基督の弟子となし、神の子輩となすに在り、此外何等の

目的なし。
 第四に吾人は基督の祈りたまひし一致の性質に注意せんとす。彼は彼等が己と父との一なるが如く一とならんことを祈れり。此の一といへることが、同一人物又は同一人格に非ざること明かなり。蓋は二人の信者が此の意味に於て一なることなければなり。然れどもパウロは吾人に語るに信者が如何なる意味に於て一なるべきかを告げたり。彼曰く「兄弟よ我等の主耶穌基督の名に託て我汝等に勸む、汝等皆言ことを同じ、且つ分争なく心を同じ意を同じて聯合へし」と(哥前一〇十)。使徒行傳に於て更に明かに説明せられぬ。「信じたる者の多くは皆意を一にし心を同ふしぬ」と(徒四〇三二)。是故に基督を信する者は一ならざるべからず。人格的同一の義に非ず。其の精神、判斷、感情、思想に於て一ならざるべからず。基督と神とは此の意義に於て一なりき。

凡の信者も正に亦彼等の一なるが如く、一ならざるべからず。更に信者は表面には分立したらんも、裏面に於ては一致せりと曰ふ反對論あり。然れども裏面の結合、裏面の教會といふ此の如き物は聖書の知らざる所なり。救主の祈りたまひし一致は最も親密なる種類の一致、――父と子の間に成立したるが如き一致なりき。初代の基督信者は親しく一致して生活するやう勧められたり。パウロ曰く「汝等の内に分争ふこと有るべからず」と。彼は基督が分るゝ者なることを立證し得るに非ざれば、基督信者に分るゝことを許さざりき。彼は自ら種々の使徒の名の下に呼ぶ所の「コリント人を責めて曰く」基督は數多に分るゝ者ならんや、パウロは汝等の爲に十字架に釘られし乎、汝等は「バプテスマを受けてパウロの名に入りしや」と（哥前一〇十三）。彼は汝等裏面に於て一致すれば可なりとは言はざりき。是故に初代基督信

者は表面に於て一致したりき。彼等は感情、慾望、主意、目的、利害に於て一致し一の首領と主宰との下に在りき、今日に於て一切信者の中なる一致も亦斯の如くならざるべからず。第五最後に吾人は基督信者の一致の目的を説くべし。「我唯彼等の爲にのみ祈らず、彼等の教に因て我を信する者の爲にも祈るなり。此は皆一にならん爲なり、父よ爾我に在り我亦爾に在、此の如く彼等も我等に在りて一にならん爲、且世をして汝の我を遣はし、事を信せしめん爲なり」と。信者の一致が世界を改心せしむるに必要なることは、深く人心に感銘せしめざるべからず。又基督を信する者一致だにせば世界は遂に信すべしと云ふ趣意此の祈禱の中に明かに含まる。且信者間の一致の缺乏が世界の不信を誘起すと云ふことも亦明に此中に含まる。然らば則ち今日成立せる黨派が其の各個の機關の建設に由りて、

信仰を滅却し又は破壊する同時に、世界を改心せしむることに成功し得と云ふ希望の如何に空しきものなるか。

一切の傳道的企業の如何に比較的に無益なるか、主の爲に盡すと自稱する人々が支離滅裂せるに當りて世界を救はんとの希望の如何に迷妄なるか。耶穌基督は世界の信仰をして信者の一致に因らしむ。而して世界が信仰なしに救はるゝ能はざるを人皆許すに當りて、如上の非難が果して過酷なりとするか。主は世界が其民の一となるまでは信せざることを含示したまへり。是故に彼は世界をして信せしめんために、彼等の一とならんことを祈れり。基督信者は異教國を教へん爲に宣教師を派遣し得るか。彼等は聖書を印刷して頒布し得るか。彼等は使徒等の熱心を以て全世界に教會を建て、神の言を説き得るか。彼等は世界を改心せしめんを考へながら、分争を維持する同時に、凡て

此等の事を爲し得るか。彼等若し之を爲さば、此くして其の目的を達し得べしと云ふ如何なる証明を有するか。或る人々が此の如く不利の事情の下に悔改し救を受くることも有らん。然れども是は世界の信することに如何なる比較を爲すに足るか。然らば則ち何が故に一切信者は一致の爲に働かざるや。何が故に正義と平和の道が全世界に弘まるべき爲に、此の大なる障害物を除かざるか。

若し一切信者が心と手、信仰と希望と愛に於て一致せば、必ず收穫すべき所に比すれば、現時の傳道事業は果して何の獲る所ありしや。最近百年間異教國に於ける傳道事業に關して一著者は其の調査の結果として、一百万の陪餐者を示せり。(レオナルド氏の「傳道百年間」)他の著者は陪餐者の數一百万と信者四百萬以上とを示す(千九百年紐育出版「一般宣教師會議」第一卷七九頁)。合衆國に於る人口七千六百萬の

中、統計は基督信者二千八百萬と何等教會に關せざる人民四千八百萬を示す、此の中舊教徒九百萬殘る所の新教徒は僅に一千九百萬に過ぎず。基督信者ならざる此の數千萬人は分争せる教會に由りて改心せしめ得べき乎。千七百九十二年近世傳道の使徒井リヤム、ケーレイ氏は地球上の人口全計を七億三千一百萬と數へ、新教信者の數四千四百萬羅馬舊教徒を一億と數へたり。千八百九十年皇立地學協會の報告に據れば、世界の人口十四億八千七百萬なるを示し、千八百九十二年亞米利加の統計協會の季刊雜誌三月號は、世界の新教徒を一億四千三百萬羅馬教徒を二億三千萬と數へたり。新教徒増加の割合が羅馬教徒よりも大なることは明かなり。然れども此等の數字は分争的教會が最も重大なる命題に對面せることを示す。此の命題は基督教の一致と云ふことに由りてのみ解決し得らるゝ物なり。是故に世界を改心

せしむる爲には新約教會を回復すると最第一の必要なりとす。唯然るのみならず。若し異教國が分争的教會に由りて改心せられたらば、空名的基督王國に於て信條宗派黨派の争議の起りし以來戰はれたるものと同種の猛烈なる宗派戰爭が戰はるべし。彼に於て教會の進歩を妨げ其の勢力を殺き其の勝利を害せし所の同一冷淡同一不虔が此に於ても教會に對して誘起せられて同様に基督の道を阻害すべし。一百年間改心事業は異教國に行はれたりし同時に、基督教國に於ける不淨なる同黨異伐の爲に、不虔に趨り冷淡に傾きつゝあるもの幾千萬なることを果して語り得るものあるか。然らば則ち不虔は如何にして黙せしめられ、世界は如何にして改心せしめ得らるべきか。基督教は如何にして海より海まで世界の端より端まで擴充さるべきか。是は惟一の方法に由りて成就し得べし。教

主の祈りたまへる惟一法のみ。一切信者は使徒等の言に隨ひて一致せざるべからず。然らば世界は信するに至るべきなり。一致したる教會は五十年以内——一代以内に於て全世界を教化するに十分なる手段と人員と船舶と聖書とを有せん。人間の家族は耶穌基督に由りて信仰に於て一となり、同じ永生の希望によりて、一齊に歎ひ踊らん。一大必要は一致なり。其の成就せらるる前に、一切信者は耶穌基督自ら隅の首石たる所の使徒預言者の基礎の上に一致せざるべからず。「主が其の血を以て購ひたまへる教會」徒二十〇二八は生命を與ふる制度なり。世界を救ふ爲に其の完全に歸らざるべからず。吾人は斯くして一致の聖謨教會同好の原則福音中に教へられたる順序と規律と聖徒の一致に對する聖書の基礎を示さんことを務めたり。若し此等の原則信者に採用せられ且實行せられんには、宗派的諍論黨

派的敵愾特名的戰闘及び分爭止み完全なる均齊調和美の教會興つて神の聖京を悦ばせ世界を祝福すべし。基督教の基礎に於ける一切信者の一致は神には悦あり其民には美譽あるべし。斯の如き一致こそ惟一の救主として主耶穌に世界を導き來るべし。神は此の如き一致を見て破顔微笑したまはん。同時に國民は聖なる隨喜に満たされ、基督の誕生に歌ひし天使よりも一倍美妙に一倍高聲に、至高き所には榮光神にあれ地には平安、人には恩恵あれと歌ひ「ハレルヤ」主なる全能の神統治めたまふと喜び叫ばん。

第三十九章 耶穌の特絶。

他の宗教の開祖と基督教の大なる作者との對照。

吾人は首め此書の筆を起すに、基督教が他の諸の宗教に勝りて斬新且

超勝なることに注意を喚起することを以てせり。今や此の作者と他の宗教の建設者の對照を指摘して以て其筆を擱んとす。

人は宗教心ある者なり。超自然の禮拜は人類の中に共存せる事實なり。一切の人民は死後或種の生存を預待せざるなし。不死に對する此の靈魂の待望を見て吾人は自ら問ふにあらずや、天上に樂しき國發

きたる花の萎まざる所ありやと。若し果して之ありとせば神は之を啓示したるや。誰に由りて之を爲しや。埃及の魔法師に由りてせしや。波斯の道士に由りてせしや。印度の佛陀、支那の孔子、希臘のソクラテス、亞拉伯亞のモハメッドなりや。若くはパレスタインの耶穌なるや。

世界如何に古しといへども、吾人の前に記述せられし宗教は能く數千年間の世界の運命を語れり。世界には一の神と一の宗教ありや、若く

は一の神と多數の宗教ありや。

埃及、印度、支那、波斯、希臘、羅馬、亞拉比亞等の歴史を閱みせよ。其の宗教の結べる實は果して如何。今日果して人類を高くし未來の希望を能

ふる所の宗教ありや。若し果して之ありとせば、其の作者は誰なりや。此の解答は一切の識見あり公平なる人士の口より來るべきなり。是れ即ち耶穌なりと。彼は諸主の主、平安の君、至高き神の祭司なり。

其の生活、勤勞、死、復活の證據は亞歷山、シーザー、ハンニバルの生活と其の克勝の其よりも有力なり。其の十二使徒は此等の事實を説く爲に其生命を獻じ、其の眞理を證明して死したり。耶穌のピラトの下に十字架に釘殺せられし事實はシーザーがブルタスの爲に刺殺されたり

と云ふ事實よりも一倍周到に論證せられたり。均しく是れ歴史上の事實なり。一は羅馬の政治を變更し他は世界の運命を變更したり。

彼の生活と教訓は不思議なり。「未だ嘗て彼の如く語りし人なし」彼は此の世界に於て初て謙遜を偉大に至るの道と教へし人なり。何人も之より先き未だ此の如き肝要を之に附與せざりき。彼は初て又唯獨り全世界に慈悲を教へたり。猶太人、希臘人、羅馬人等は正義の觀念を有したりき。然れども慈悲は彼より以前に未だ主義として教へられざりき。彼は曰く「慈悲ある者は福なり。其人は慈悲を得べければなり」と、彼は初て「天に在す我等の父」に祈るべく、人類を教へ、其弟子は全能の神の「子女」と呼ばれたり。彼は其敵を愛することを教へ、此の金誠を世界に興へたり。誰か能く此の進歩したる時代に於て耶穌の爲し、所を成就せしか。誰か彼の如く其聲全世界に響き、寂寞なる墳墓の奥に及ぶものあるや。

彼の死後世界は一千九百年を経たり。恐くは世界の全面に於て彼が

其の根原を主張し得ざる何等愛と慈悲の機關なからん。基督以前又基督教以外寒者、跛者、盲者、孤兒、老者、不幸者の爲にせる慈悲の機關何處に在りや。基督以前何等見るべき物あるなく、——基督信者ならざる國民の中にあるなく、不信者の建てたる者あるなし、然り一切之あるなし。耶穌曰く「我汝に安息を與へん」と。然れば疲れたる者苦しめる者皆休息めり。

彼は世界の大人と對照して唯獨り特立せり。彼は大人中の大智者、智者中の大人たるのみならず、又彼は智者に智慧を教へ、傑人に偉大を教へたり。彼は一切の他の傑人より特絶せること、彼を以て人とせんより、神とせん方容易なるほごなり。耶穌の如き人物を鑄出するには、唯神の鑄型を要す。貧苦に生れ、時代の利己と頑執に圍繞せられながら、彼は猶ほ地上の最

も廣き人道を教へたり。教育なくして而も彼は時と共に記されたる最も智き格言を教へたり。彼は其の自ら書きし所は唯一句而も之を砂の上に書けるに止る。此外決して著はす所なし。而も彼の生活は聖史に記され、其の言語は有らざる文明國民の書籍及び世界の紀念品と墳墓とに記されたり。彼は時代と法律を變更せり。世界は其年齢を創世より數ふるを廢して彼の降誕より算へ興し而して今日吾人は「我等の主の紀元」と書す。彼は小兒の朋友なり。彼は彼等を祝して來るべき王國の模範となせり。人民は彼の降誕の日に於て、麥稈花の冠を編みて之を賜物として其の子輩に與ふ。其の復活の日に彼等は其の職業を休止し、彼の驚異すべき事業を冥想す。彼の名は小兒の柔かき舌之歌ひ壯年の嚴肅なる祈禱勝妙なる讚美之を崇め、老年の寤寐之を口にし、臨終の夕之を呼吸して以て終ふ。

世界の偉人は皆彼の生涯を論ずるを事とす。彼は千九百年間名家の傑作の中に生く。彼の主張を拒絶する人々の最も純潔なる思想といへども、亦彼に借り、彼より取り來れる物なり。善潔、聖なる事物にして、彼の發言に出ざるものなし。世界の歴史の中間に立ちたる彼の人格は、人の知るべき唯一完全なる者なり。彼は萬人の上に聳へて過去の時代に尊敬を受け、又必ずや一切來るべき時代に之を受けん。彼の死後殆ど二千年を経たり、而も世界は彼の生涯に向つて進歩したれども、未だ彼の完全に到達せざるなり。猶ほ二千年間開展したりとせよ、人は必ずや彼を仰いて愈尊敬を加へんのみ。彼は又詩歌の中に生く。何人の名も彼の如く頻繁に歌はるゝなし。文明の詩歌より之を取り去れ。然らば絶高絶妙の唱歌は替らん。過去の詩歌は傷はれ、聖徒の歌謡は永久止むべし。詩歌中の耶穌の名は、

千萬中の首なるものにして、時間の最終期まで世界を周りて歌はるべし。其の不思議なる力に由りて、活ける者は喜び、死する者は勇氣を得。吾が魂を愛するエスよ、千代經し若よ吾が身をかくこめ「エス我を愛す」罪人の友なるエスよ、天使等の唱歌より勝りて力ある此等清淨なる讚美歌なしに生ける者は生き、死する者は死なば、世界は愈闇黒となる無からんや。

彼は又古今の大美術家の作品中に生く。繪畫の耶穌と其弟子とに關係する者如何に多きや。ナポレオン三世の滅亡の後、吾人は巴里の諸美術閣の壁上、此の大なる市府を飾りたる彼の肖像畫が取り去られて、多の空所を遺したるを見たり。然し耶穌と其の弟子とが、世界の美術閣より取除かれたらんには、遺す所の空虚果して幾何。

文明より耶穌を取り去れ、然らば其歴史、其の詩歌、其の美術、其の文學、其

の政治、其の道德、其の宗教、其の大なる未來の希望は悉く一變すべし。彼の死後、美術は其の清淨を益し、文章は其の純潔を益し、詩歌は其の美妙を益し、人類は其の快樂を益し、生ける間善徳を益し、死する時に幸福を益せり。眞理は斬新なる意味を有し、生活は一倍善良の目的を有し、希望は一倍光明なる眼界を、死は新なる啓示を有せり。

彼の生涯の使命は愛なり。彼の貧窮と寂寞に居りし間、徒歩にて歩き、休むべき所なかりき。彼は疲れたる者に安息を約して曰く、凡て疲れたる者重きを負へる者は我に來れ、我汝等を休ません、又曰く、我は途なり眞理なり生命なり、「我は復活なり生命なり」と、彼は死する時に依り頼むべき名なり。彼は不死を照し示せり。墳墓に在りては、一切は寂寞、闇黒、静寂なりき。數世期間然りしなり。慰藉の聲は絶て墳墓より發せざりき。彼は此の至深の闇黒中より初めて其聲を聞きたる人

會教之督基

なりき。其の反響のカルバリー丘にて消滅せし以來、死の暗夜は午日の如く照り、未だ嘗て知らざる美妙の世界が、其の榮光の映せる陰闇を透して見られぬ。今日天下其の名の知られたる所には、到る處に弔者の悲哀は滅せられ、死ぬる者、死にし者に對する希望は益されぬ。彼の帝國は日々に深められ、弘められたり。彼の道は年々新しき名譽と榮光を克ち得つゝあり。彼の禮拜の爲に興さるゝ數千の會堂は世界を繞り、彼の讚美は地上の凡の大陸、海上の島嶼に於て、數千萬の歌ふ所たり、耶穌の事蹟は初てエルサレムに於て叙べられたる時に新らしく、アンテオケ、アデンス、羅馬に於て新しかりき。今も猶ほ新しく、又時の夕に至るまでも新しからん。無限の感慨の涕涙を催さしむること、人復た哭かず、墓其の死者を返し、死克に吞まるゝ迄に及ばん。彼は僅々三年間にして世界を革新し、新なる紀元と新なる法律と新なる

會教之督基

る宗教を之に與へたり。彼は三日にして死の帝國を革新したり。彼は血の滴るゝ足を以て獨り悲哀の醜を踏み。彼は其の貫かれたる手を以て死の門を啓き、斯くも久しく其の廣大なる權威を保ちたる惡魔に克ちて、死を怖れて生涯繋かれたる者を解放たり。其手、其足に釘の迹を留め、其の脇には槍の印象を留めながら、彼はガザの門を運びたるサムソンよりも大なる力を以て墓より起き來り、死の桎梏を足下に碎き、救ふことを得る偉大なる力を以て進み、囚はれたる世界に自由を宣べたり。曰く我は生くる所の者嘗て死せし事ありし者、見よ我は永久生き死と陰府の鑰を有てり」と。

彼は其の昇天の日に天を革新したり、天使の衆軍高聲に歌ひて曰く、門よ汝の首を昂げよ、榮光の王入りたまはんと。彼既に入り、死の苦難を受けしために冠を受けたり。神彼に笏を與へ、彼に治むべく命せり。

基督之教會終

第二篇 第三十九章 耶穌の傳説

四百七十

彼は其の天上の位より今廻轉する時代を意の如く支配す。彼其の衣と腰との上に書かれたる名を有せり、曰く諸王の王、諸主の主と。彼は愛を以て勝ちつゝ、又勝つべく進む。彼は遠からず其頭上には世界の冠冕を戴き、其足下には世界の諸王を率ひ、諸主の主として、歸り來り、世界の活けるものと、無数の死ねる者の上に、宇宙的權威の笏を以て統御すべし。彼は一切の時代より救はれたる者を、國民、血族、種族より呼び聚め、暴風吹かざる平安の岸に言を傳へ、以て神の一家族を造るべし。此處には世界に於て斷れたる愛の紐が再び結び合はさるべし。茲處には現世に於て吾人の内より疾く去りて、吾人を殘して其の衰萎を哭かしたる所の美なる形影が、天上の家に於て永久吾人の前に住まらるべし。此處には復た苦難なく、復た悲哀なく、而して我は天より呼はる大なる聲を聞く、……茲處には復死あることなからんと。

明治四十年十一月二日印刷
明治四十年十一月五日發行

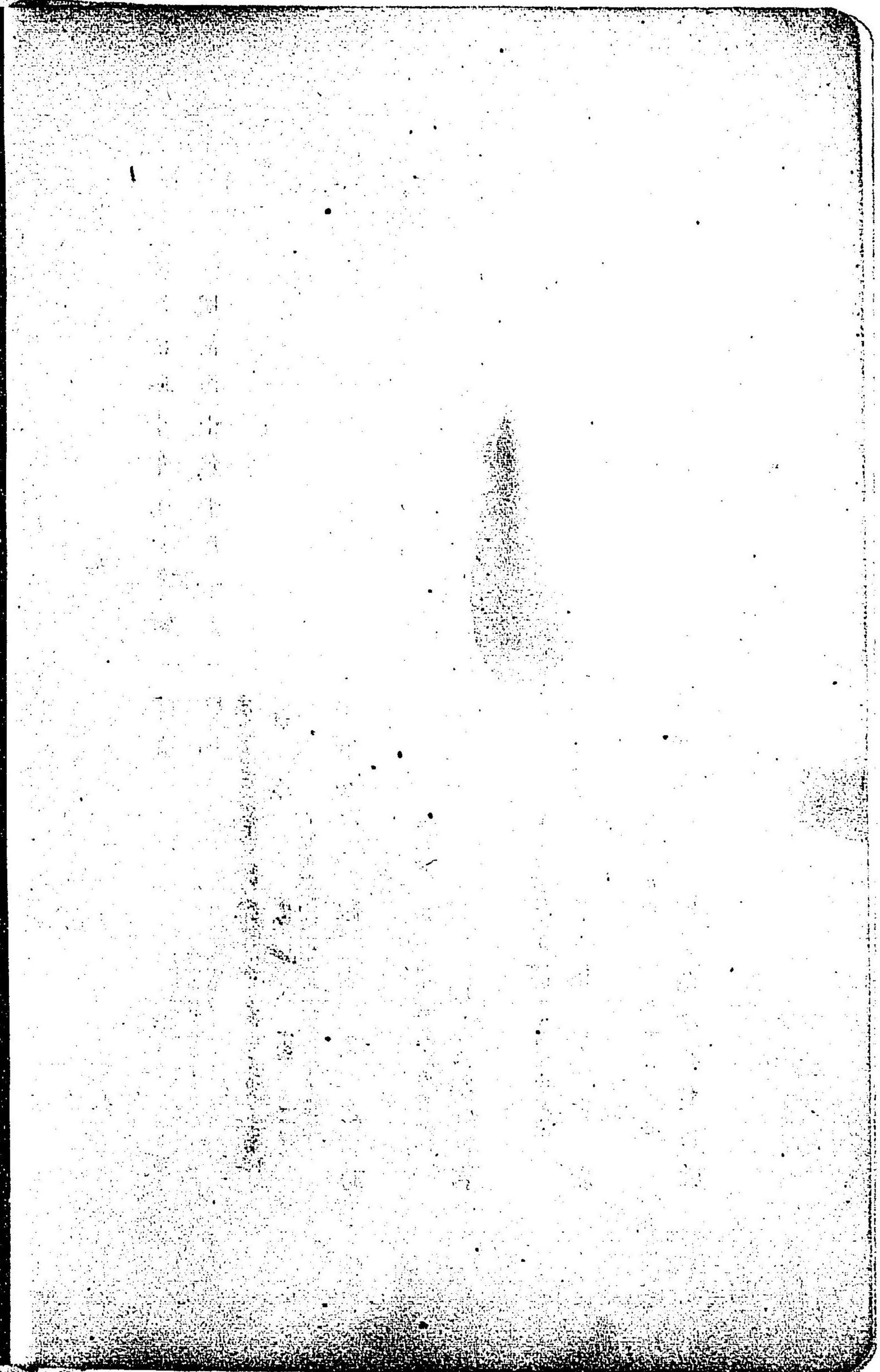
定價金壹圓也

發行所 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
發行所 福永文之助

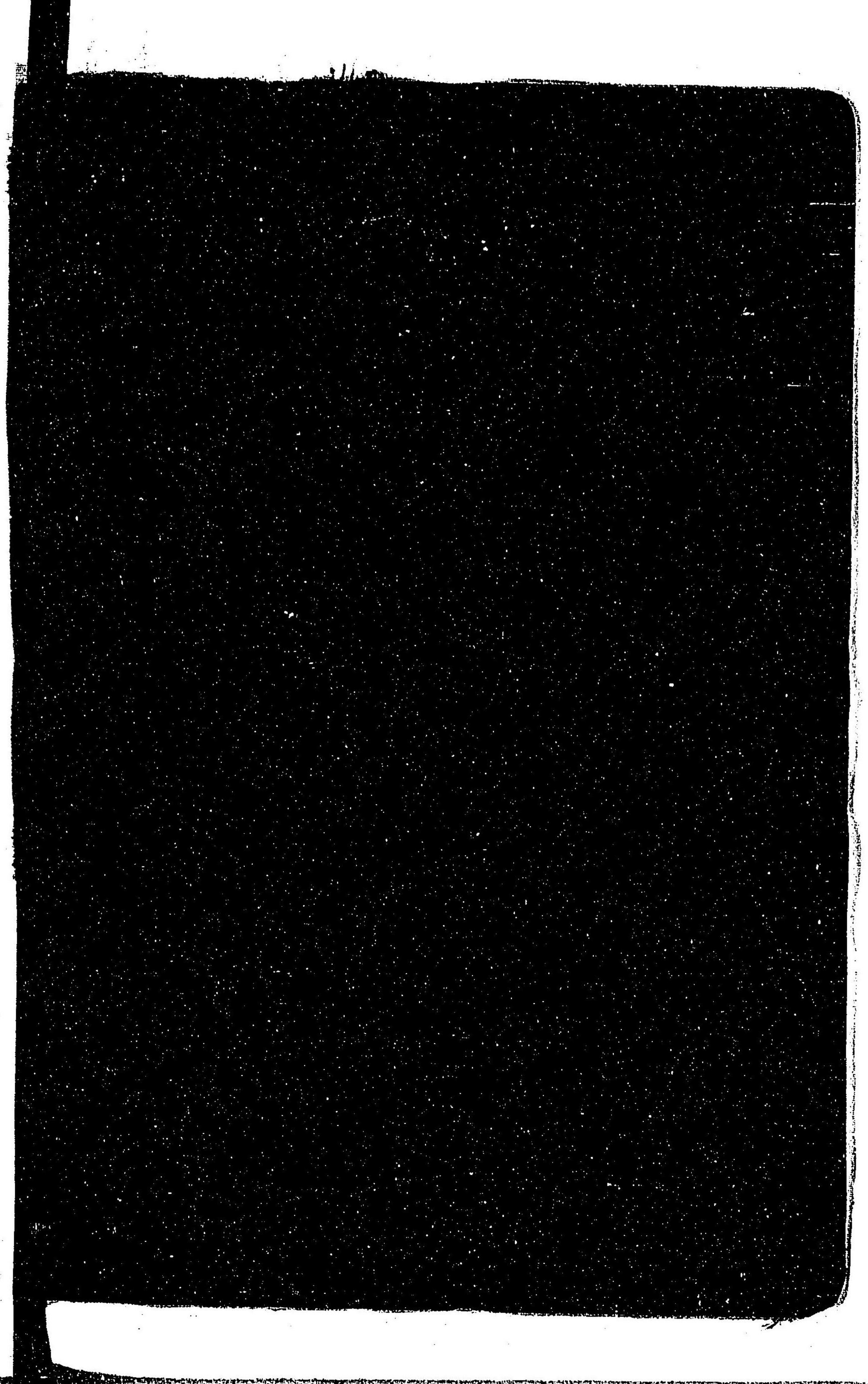
印刷所 橫濱市太田町五丁目八十七番地
印刷所 村岡平吉

發行所 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地
發行所 警醒社書店

印刷所 橫濱市山下町八十一番地
印刷所 福音印刷合資會社



258
276



020567-000-3

特18-349

基督之教会

米国一信徒/著

M40

ABI-0381



